

輪 説 導 入 講 義

——『聖徳太子の信仰思想と日本文化創業』(黒上正一郎著)に寄せて——

福岡県立福岡中央高校教諭

占 部 賢 志

- 一、身近かにみられる歴史上の人物へのアプローチ
1 すぐれた人間などゐない。社会のしくみが人間をつくる。従って社会構造の理解が第一である、とする見方。
2 時代や社会には制約がある。その制約を超越するやうな偉人といふのはありへない。あるやうに思ふのは、その人物への「信仰」ともいふべき粉飾が施されてゐるからだ、とする考へ。
3 一部の英雄偉人が歴史を動かしたのではない、民衆の力が歴史を推進するといふ説。
4 如何に非凡な人物といへど必ず弱点はある。その弱点をみつけたことが人間らしさの発見につながる、とする説。

二、私の輪説体験から

- 1 輪説方式の勉強は実に面白い。
2 輪説の対象は何より古典が一番。最近では人の間に共有する古典が喪失してゐるのでは。
3 そこには肉声の飛び交ふ世界がある。
4 伊藤仁斎の塾では酒や肴も出てにぎはしく学び合つたらしい。まさに学問すなはち交歓の世界だった。
5 輪説といふのは、もちろん学問の一方法だけでも、その妙味は「わかる」「ことより」「気づかされる」ところにある。
6 学ぶ対象を批判したり貶めるための学問より、驚嘆したり感奮し得る学問の方が楽しくもありやり甲斐もある。また値打ちがあるやうな気がする。
7 聖徳太子の三経講説の世界は、輪説の世界に通じるものだったのでは。輪説といふ学問は太子に始まると云へはしまいか。
8 何が書かれてゐるか、よりも如何に表現されているかが大事。

三、著者黒上正一郎先生の学問

- 1 「単なる英雄偉人としてではなく総合的指導精神の具現者」として太子を鎮仰されたとはどういふことだらう。
2 「大陸文化を批判総合」する、とはどういふ意味なのだらう。
3 太子を「徳念」するとは、どんな心組みをいふのか。
4 「我が国際的地位の確立」とは、どのやうなことを指すのだらう。
5 「大陸文化批判総合の内的事業」とは、どのやうな点にみられるのだらう。
6 「内的偉業の真相を窮尽すべき」とは。
7 「具体的内容を表現させ給へる御言葉の微妙の脈絡」とは。
8 「精神科学的研究は人生そのものを対象とするが故に、……研究者の体験に統一せられて生命を得る」といふ叙述はどのやうな意味だらう。

(以上は序説一頁から三頁五行目迄)

(以上は序説八頁から十頁四行目迄)

四、御物法華義疏の題号下の意義

五、太子の国書について

六、十七条憲法「第一条」にみる太子の人生観と政治生活

(以上は六十二頁十行目から六十四頁六行目迄)